

令和6年度 神代中学校 国語科 評価計画 1年

内容解説資料

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	評価規準	評価方法
4月	朝のリレー 1時間 ◎音声の働きや仕組みについて、理解を深めることができる。(知・技(1)ア) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	【知・技】 音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。(1)ア) →速さ、声の強弱、間の取り方、言葉の調子、声の高さを工夫しながら音読している。 【態】 音声の働きや仕組みについて進んで理解を深め、小学校での学習を生かして音読しようとしている。	【知・技】 定期考査 表現活動(発表) 学習プリントの記述 【態】 定期考査 授業中の学習態度、 発言状況 授業プリントの記述 振り返りの記録
4月	言葉に出会うために 野原はうたう 1時間 ◎音声の働きや仕組みについて、理解を深めることができる。(知・技(1)ア) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	【知・技】 音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。(1)ア) →速さ、声の強弱、間の取り方、言葉の調子、声の高さを工夫している。 →情景や心情を表す表現に応じて、音読のしかたを工夫している。 【態】 音声の働きや仕組みについて進んで理解を深め、小学校での学習を生かして音読しようとしている。	【知・技】 定期考査 表現活動(発表) 学習プリントの記述 【態】 定期考査 授業中の学習態度、 発言状況 プリントの記述 振り返りの記録
4月	声を届ける 書き留める 言葉を調べる 続けてみよう 4時間(話聞②書②) ◎音声の働きや仕組みについて、理解を深めることができる。(知・技(1)ア) ◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使うことができる。(知・技(2)イ) ◎読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解することができる。(知・技(3)オ) ◎目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	【知・技】 音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。(1)ア) →聞き手を意識して速さ、声の強弱、間の取り方、言葉の調子、声の高さを工夫している。 【態】 音声の働きや仕組みについて進んで理解を深め、小学校での学習を生かして声を届けようとしている。 【知・技】 ・比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。(2)イ) →線や矢印で情報を整理している。 ・読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。(3)オ) →これまでに読んだ本などを基に、印象に残った言葉を書き留めている。 【思・判・表】 「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) →日常生活やこれまでに読んだ本の中から題材を決め、情報を整理して「言葉の手帳」に書き込んでいる。 【態】 進んで日常生活の中から題材を決め、これまでの学習を生かして「言葉の手帳」を作ろうとしている。	【知・技】 定期考査 表現活動(発表) 学習プリントの記述 振り返りの記録 【態】 定期考査 授業中の学習態度、 発言状況 プリントの記述 振り返りの記録 【思・判・表】 定期考査 表現活動(発表) 学習プリントの記述 課題などの成果物

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	評価規準	評価方法
5月	シンシュン 4 時間 ◎事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 (知・技(1)ウ) ◎場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えることができる。(思・判・表C(1)イ) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★物語を読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする。 (思・判・表C(2)イ)	【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)ウ) →登場人物の心情や行動を表す言葉に着目して作品を読み進めている。 【思・判・表】「読むこと」において、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。(C(1)イ) →場面ごとに会話や描写を整理して、登場人物の心情や関係の変化を捉えている。 【態】場面の展開について、描写を基に積極的に捉え、学習課題に沿って感想を交流しようとしている。	【知・技】 定期考査 学習プリントの記述 【思・判・表】 定期考査 表現活動(発表) 学習プリントの記述 課題などの成果物 【態】 定期考査 課題の提出状況 プリントの記述 振り返りの記録
5月	【聞く】 情報を的確に聞き取る 1 時間 ◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使うことができる。(知・技(2)イ) ◎目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討することができる。(思・判・表A(1)ア) ◎必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめることができる。(思・判・表A(1)エ) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★紹介や報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問したり意見などを述べたりする。(思・判・表A(2)ア)	【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。((2)イ) →5W1Hに注意して、キーワードとなる言葉を書き留め、番号や記号を用いて整理している。 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討している。(A(1)ア) →日常の話題について、情報を整理し、聞き取る内容を考えている。 ・「話すこと・聞くこと」において、必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめている。(A(1)エ) →情報を的確に聞き取り、要点を押さえてメモしている。 【態】進んで記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、学習課題に沿ってメモを取ろうとしている。	【知・技】 定期考査 学習プリントの記述 【思・判・表】 定期考査 表現活動(発表) 学習プリントの記述 課題などの成果物 【態】 定期考査 課題の提出状況 プリントの記述 振り返りの記録
5月	季節のしおり 春 ・事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 (知・技(1)ウ) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)ウ) →春に関わる言葉にふれ、それぞれの春の情景を想像している。 【態】伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。	【知・技】 課題の記録 【態】 課題の記録
5月	情報整理のレッスン 比較・分類 1 時間	【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。((2)イ)	【知・技】 定期考査 学習プリントの記述

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	評価規準	評価方法
	◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使うことができる。(知・技(2)イ) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	→情報の整理のしかたを理解し、情報を比較したり、分類したりしている。 【態】学習課題に沿って、積極的に情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使おうとしている。	課題などの成果物 【態】 定期考査 課題の提出状況 振り返りの記録
5月	情報を整理して書こう わかりやすく説明する 4時間 ◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使うことができる。(知・技(2)イ) ◎目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★本や資料から文章や図表などを引用して説明したり記録したりするなど、事実やそれを基に考えたことを書く。(思・判・表B(2)ア)	【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。(2)イ) →集めた情報を、観点に沿って比較したり、共通点を見つけて分類したりして整理している。 【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) →目的や相手を意識して、情報を集めて整理し、説明の文章の構成を考えている。 【態】集めた材料を粘り強く整理し、学習の見通しをもってわかりやすく説明しようとしている。	【知・技】 定期考査 学習プリントの記述 課題などの成果物 【思・判・表】 定期考査 学習プリントの記述 課題などの成果物 【態】 定期考査 課題の提出状況 振り返りの記録
5月	漢字1 漢字の組み立てと部首 漢字に親しもう1 1時間 ◎小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)イ) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	【知・技】小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)イ) →漢字の組み立てと部首について理解し、漢和辞典を使って調べている。 【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。	【知・技】 定期考査 小テスト 学習課題の記述 【態】 定期考査 課題の提出状況
6月	ダイコンは大きな根？ 2時間 ◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使うことができる。(知・技(2)イ) ◎文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握することができる。(思・判・表C(1)ア) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★説明の文章を読み、理解したことや考えたことを報告したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア)	【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。(2)イ) →本文中で比較がどのように使われているかを理解している。 【思・判・表】「読むこと」において、文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。(C(1)ア) →「問い」と「答え」から中心的な部分を捉え、筆者の主張を理解している。 【態】文章の中心的な部分と付加的な部分について積極的に捉え、学習課題に沿って筆者の工夫を伝え合おうとしている。	【知・技】 定期考査 学習プリントの記述 【思・判・表】 定期考査 学習プリントの記述 課題などの成果物 【態】 定期考査 課題の提出状況
6月	ちょっと立ち止まって 3時間 ◎原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア)	【知・技】原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) →筆者の主張と事例との関係を理解して	プリントの記述 振り返りの記録

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	評価規準	評価方法
	◎文章の中心的な部分と付加的な部分，事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え，要旨を把握することができる。(思・判・表C(1)ア) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに，進んで読書をし，我が国の言語文化を大切に，思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力，人間性等) ★説明の文章を読み，理解したことや考えたことを報告したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア)	いる。 【思・判・表】「読むこと」において，文章の中心的な部分と付加的な部分，事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え，要旨を把握している。(C(1)ア) →序論・本論・結論の段落のまとまりに着目し，要旨を捉えている。 【態】進んで要旨を把握し，学習の見通しをもって考えたことを伝え合おうとしている。	
6月	思考のレッスン1 意見と根拠 1時間 ◎原因と結果，意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに，進んで読書をし，我が国の言語文化を大切に，思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力，人間性等)	【知・技】原因と結果，意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) →説得力のある根拠や，意見と根拠の結び付きについて理解している。 【態】学習課題に沿って，積極的に意見と根拠の関係について理解しようとしている。	【知・技】 定期考査 学習プリントの記述 【態】 課題の提出状況 プリントの記述
6月	話の構成を工夫しよう 好きなことをスピーチで紹介する 4時間 ◎音声の働きや仕組みについて，理解を深めることができる。(知・技(1)ア) ◎目的や場面に応じて，日常生活の中から話題を決め，集めた材料を整理し，伝え合う内容を検討することができる。(思・判・表A(1)ア) ◎自分の考えや根拠が明確になるように，話の中心的な部分と付加的な部分，事実と意見との関係などに注意して，話の構成を考えることができる。(思・判・表A(1)イ) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに，進んで読書をし，我が国の言語文化を大切に，思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力，人間性等) ★紹介など伝えたいことを話したり，それらを聞いて質問したり意見などを述べたりする。(思・判・表A(2)ア)	【知・技】音声の働きや仕組みについて，理解を深めている。(1)ア) →声の大きさ，話す速さ，間の取り方などに注意しながらスピーチをしている。 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において，目的や場面に応じて，日常生活の中から話題を決め，集めた材料を整理し，伝え合う内容を検討している。(A(1)ア) →聞き手を意識して話題を決め，話の内容を選んで整理している。 ・「話すこと・聞くこと」において，自分の考えや根拠が明確になるように，話の中心的な部分と付加的な部分，事実と意見との関係などに注意して，話の構成を考えている。(A(1)イ) →聞き手を想定し，伝えたいことが明確になるように，構成を考え，話す順番を工夫している。 【態】話の構成を粘り強く考え，学習の見通しをもってスピーチをしようとしている。	【知・技】 表現活動（発表） プリントの記述 【思・判・表】 表現活動（発表） プリントの記述 課題などの成果物 【態】 表現活動（発表） 課題の提出状況 プリントの記述 振り返りの記録
6月	漢字に親しもう2 1時間 ◎小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字に加え，その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読むことができる。また，学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き，文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)イ) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに，進んで読書をし，我が国の言語文化を大切に，思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力，人間性等)	【知・技】小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字に加え，その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また，学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き，文や文章の中で使っている。(1)イ) →小学校で学習した漢字の熟語を使って文章を作り，中学校で学習する漢字の読み方について理解している。 【態】学習課題に沿って，積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。	【知・技】 定期考査 小テスト 学習課題の記述 【態】 定期考査 課題の提出状況
6月	文法への扉1 言葉のまとまりを考えよう 2時間 ◎単語の類別について理解することができる。(知・技(1)エ) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに，進んで読書をし，我が国の	【知・技】単語の類別について理解している。(1)エ) →文法の必要性を知り，言葉の単位とその働きについて理解している。 【態】単語の類別を理解するために，今までの学	【知・技】 定期考査 学習プリントの記述 【態】 課題の提出状況

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	評価規準	評価方法
	言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	習を生かして、積極的にその前提となる言葉の単位について理解しようとしている。	プリントの記述
6月	情報を集めよう 情報を読み取ろう 情報を引用しよう 3時間 (読①書②) ◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使うことができる。(知・技(2)イ) ◎目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ◎目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈することができる。(思・判・表C(1)ウ) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★本や資料から文章や図表などを引用して説明したり記録したりするなど、事実やそれを基に考えたことを書く。(思・判・表B(2)ア) ★学校図書館などを利用し、多様な情報を得て、考えたことなどを報告したり資料にまとめたりする。(思・判・表C(2)ウ)	【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。(2)イ) →グラフや文章の中の情報を関連づけて情報を整理し、引用のしかたや出典の示し方を理解している。 【思・判・表】 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) →調べたいテーマについて、本やインターネットを活用して情報を集め、整理し、伝えたいことを明らかにして書いている。 ・「読むこと」において、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈している。(C(1)ウ) →必要な情報に着目して要約し、内容を理解している。 【態】引用のしかたや出典の示し方について積極的に理解を深め、学習課題に沿ってそれらを使おうとしている。	【知・技】 定期考査 学習プリントの記述 課題などの成果物 【思・判・表】 定期考査 学習プリントの記述 課題などの成果物 【態】 定期考査 課題の提出状況 振り返りの記録
7月	詩の世界 【書く】詩を作ろう 3時間 (読②書①) ◎事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)ウ) ◎比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使うことができる。(知・技(1)オ) ◎文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。(思・判・表C(1)エ) ◎根拠を明確にしなが、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★詩や解説文を読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ) ★詩を創作し、感じたことや考えたことを書く。(思・判・表B(2)ウ)	【知・技】 ・事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ) →詩の中の語句の意味を捉えながら、語感を磨き、語彙を豊かにしている。 ・比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使っている。(1)オ) →表現の技法を理解し、表現を工夫して詩を書いている。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。(C(1)エ) →詩に描かれている情景を想像し、表現の効果を考えている。 ・「書くこと」において、根拠を明確にしなが、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ) →自分の思いが読み手に伝わるように、言葉や表現を工夫して詩を書いている。 【態】文章の構成や展開、表現の効果について積極的に考え、学習の見通しをもって詩を創作しようとしている。	【知・技】 表現活動(作品) プリントの記述 【思・判・表】 表現活動(作品) プリントの記述 課題などの成果物 【態】 表現活動(作品) 課題の提出状況 プリントの記述 振り返りの記録
7月	比喩で広がる言葉の世界 2時間 ◎比喩などの表現の技法を理解し使うことができる。(知・技(1)	【知・技】比喩などの表現の技法を理解し使っている。(1)オ) →文中で使われている比喩の文脈上の意	【知・技】 定期考査 学習プリントの記述

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	評価規準	評価方法
	オ) ◎文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握することができる。(思・判・表C(1)ア) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★説明の文章を読み、理解したことや考えたことを報告したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア)	味を理解している。 【思・判・表】「読むこと」において、文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。(C(1)ア) →各段落の役割を理解し、要旨を捉えている。 【態】進んで要旨を把握し、学習課題に沿って言葉について考えを深めようとしている。	【態】 課題の提出状況 プリントの記述
7月	言葉 1 指示する語句と接続する語句 2 時間 ◎指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めることができる。(知・技(1)エ) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	【知・技】指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めている。((1)エ) →指示する語句と接続する語句の役割を理解している。 【態】今までの学習を生かして、積極的に指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めようとしている。	【知・技】 定期考査 学習プリントの記述 【態】 課題の提出状況 プリントの記述
7月	言葉を集めよう もっと「伝わる」表現を目指して 1 時間 ◎事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)ウ) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)ウ) →言葉を集め、似た意味の言葉や修飾する言葉を考え、伝えたいことに合う的確な言葉を探している。 【態】今までの学習を生かして、積極的に事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使おうとしている。	【知・技】 定期考査 学習プリントの記述 【態】 課題の提出状況 プリントの記述
7月	読書を楽しむ 1 時間 ◎読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解することができる。(知・技(3)オ) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	【知・技】読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。((3)オ) →さまざまな読書の楽しみ方について理解し、読書が知識を得たり、新しいものの見方や考え方を知ったり、自分の考えを広げたりすることに役立っていることを理解している。 【態】読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを進んで理解し、今までの学習を生かして本の魅力や感想を伝え合おうとしている。	【知・技】 学習プリントの記述 【態】 課題の提出状況 プリントの記述
7月	本の中の中学生 あと少し、もう少し 西の魔女が死んだ ブラインドの向こうに見える光 読書案内 本の世界を広げよう 読書コラム 本との出会い 1 時間 ◎読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解することができる。(知・技(3)オ) ◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができる。(思・判・表C(1)オ) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★学校図書館などを利用し、多様な情報を得て、考えたことをを報	【知・技】読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。((3)オ) →読書が、知識を得たり、新しいものの見方や考え方を知ったり、自分の考えを広げたりすることに役立っていることを理解している。 【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしている。(C(1)オ) →文章を読み、理解したことを基に、自分の考えを形成している。 【態】文章を読んで理解したことに基づいて、積極的に自分の考えを確かなものにし、学習課題に沿って本を読んで考えたことを伝	

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	評価規準	評価方法
	告したり資料にまとめたりする。(思・判・表C(2)ウ)	え合おうとしている。	
7月	季節のしおり 夏 ・事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)ウ) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	【知・技】 事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ) →夏に関わる言葉にふれ、それぞれの夏の情景を想像している。 【態】 伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。	【知・技】 課題の記録 【態】 課題の記録

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	評価規準	評価方法
9月	大人になれなかった弟たちに…… 4 時間 ◎読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解することができる。(知・技(3)オ) ◎場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えることができる(思・判・表C(1)イ) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★物語を読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	【知・技】読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。(3)オ) →戦時中という時代背景や、その中で暮らす人々の生活苦を理解している。 【思・判・表】「読むこと」において、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。(C(1)イ) →描写に着目して、登場人物の行動や心情の変化を捉えている。 【態】登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に積極的に捉え、学習の見通しをもって朗読しようとしている。	【知・技】 定期考査 学習プリントの記述 【思・判・表】 定期考査 学習プリントの記述 課題などの成果物 【態】 定期考査 課題の提出状況 プリントの記述 振り返りの記録
9月	星の花が降るころに 5 時間 ◎比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使うことができる。(知・技(1)オ) ◎場面と場面、場面と描写などを結び付けたりして、内容を解釈することができる。(思・判・表C(1)ウ) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★小説を読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	【知・技】比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解している。(1)オ) →様子や動きを何かにたとえた表現を探し、どのような情景や気持ちをたどっているのか考えている。 【思・判・表】「読むこと」において、場面と場面、場面と描写などを結び付けたりして、内容を解釈している。(C(1)ウ) →場面ごとの状況や、場面と人物などの描写を結び付けて、内容を読み深めている。 【態】進んで場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈し、学習の見通しをもって考えを伝え合おうとしている。	【知・技】 定期考査 学習プリントの記述 【思・判・表】 定期考査 学習プリントの記述 課題などの成果物 【態】 定期考査 課題の提出状況 プリントの記述 振り返りの記録
9月	聞き上手になろう 質問で話を引き出す 1 時間 ◎音声の働きや仕組みについて、理解を深めることができる。(知・技(1)ア) ◎必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめることができる。(思・判・表A(1)エ) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★紹介や報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問したり意見などを述べたりする。(思・判・表A(2)ア)	【知・技】音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。(1)ア) →話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方などに注意しながらスピーチをしている。 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめている。(A(1)エ) →話し手のスピーチに耳を傾け、聞いたことを基に、質問のしかたを工夫して聞き、対話をしながら話を十分に理解しようとしている。 【態】進んで記録したり質問したりしながら、話の内容を捉え、今までの学習を生かして話を引き出そうとしている。	【知・技】 学習プリントの記述 【思・判・表】 表現活動(話し合い) 学習プリントの記述 課題などの成果物 【態】 課題の提出状況 プリントの記述 振り返りの記録
9月	項目を立てて書こう 案内文を書く	【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを	【知・技】 学習プリントの記述

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	評価規準	評価方法
	2 時間 ◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使うことができる。(知・技(2)イ) ◎目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★行事の案内や報告の文章を書くなど、伝えるべきことを整理して書く。(思・判・表B(2)イ)	使っている。(2)イ) →情報を項目ごとに整理することを理解し、案内文の作成に生かしている。 【思・判・表】 「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) →伝えたい事柄・相手に応じて、必要な情報が明確に伝わるように、項目ごとに整理して案内文を書いている。 【態】 集めた材料を積極的に整理し、学習課題に沿って案内文を書こうとしている。	【思・判・表】 表現活動(案内文)学習プリントの記述課題などの成果物
9月	【推敲】読み手の立場に立つ 1 時間 ◎事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)ウ) ◎読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述のしかたなどを確かめて、文章を整えることができる。(思・判・表B(1)エ) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★行事の案内を書くなど、伝えるべきことを整理して書く。(思・判・表B(2)イ)	【知・技】 事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ) →正確でわかりやすい表現に書き改めている。 【思・判・表】 「書くこと」において、読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述のしかたなどを確かめて、文章を整えている。(B(1)エ) →読み手の立場に立って、誤記はないか、表現は適切か、伝える情報が正確にわかりやすく書けているかななどを検討している。 【態】 粘り強く文章を整え、学習課題に沿って案内文を推敲しようとしている。	【態】 課題の提出状況プリントの記述振り返りの記録
10月	言葉 2 方言と共通語 2 時間 ◎共通語と方言の果たす役割について理解することができる。(知・技(3)ウ) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	【知・技】 共通語と方言の果たす役割について理解している。(3)ウ) →共通語と方言の役割や特徴について理解している。 【態】 今までの学習を生かして、積極的に共通語と方言の果たす役割について理解しようとしている。	【知・技】 学習プリントの記述 【態】 課題の提出状況プリントの記述
10月	漢字 2 漢字の音訓 1 時間 ◎小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)イ) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	【知・技】 小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)イ) →漢字の音・訓について理解し、熟語を正しく読んだり、同じ熟語の音・訓の読み方を使って短い文を作ったりしている。 【態】 学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。	【知・技】 定期考査 小テスト 学習課題の記述 【態】 定期考査 小テスト 課題の提出状況
10月	「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ 4 時間	【知・技】 原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。(2)	【知・技】 定期考査

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	評価規準	評価方法
	◎原因と結果, 意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎文章の構成や展開について, 根拠を明確にして考えることができる。(思・判・表C(1)エ) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに, 進んで読書をし, 我が国の言語文化を大切に, 思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力, 人間性等) ★記録の文章を読み, 理解したことや考えたことを報告したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア)	ア) →筆者がどのような事実を基にどのような仮説を立てたかについて, 理解している。 【思・判・表】「読むこと」において, 文章の構成や展開について, 根拠を明確にして考えている。(C(1)エ) →筆者の意見と, それを支える根拠との関係を考えている。 【態】文章の構成や展開について粘り強く考え, 学習の見通しをもって考えたことを文章にまとめようとしている。	学習プリントの記述 【思・判・表】 定期考査 学習プリントの記述 課題などの成果物 【態】 定期考査 課題の提出状況 振り返りの記録
10月	思考のレッスン2 原因と結果 1 時間 ◎原因と結果, 意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに, 進んで読書をし, 我が国の言語文化を大切に, 思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力, 人間性等)	【知・技】原因と結果, 意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) →原因と結果がどうつながっているか整理し, 二つの関係について理解している。 【態】今までの学習を生かして, 積極的に原因と結果の関係について理解しようとしている。	【知・技】 定期考査 学習プリントの記述 【態】 課題の提出状況 プリントの記述
10月	根拠を示して説明しよう 資料を引用してレポートを書く 5 時間 ◎比較や分類, 関係づけなどの情報の整理のしかた, 引用のしかたや出典の示し方について理解を深め, それらを使うことができる。(知・技(2)イ) ◎書く内容の中心が明確になるように, 段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えることができる。(思・判・表B(1)イ) ◎根拠を明確にしながら, 自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに, 進んで読書をし, 我が国の言語文化を大切に, 思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力, 人間性等) ★本や資料から文章や図表などを引用して説明したり記録したりするなど, 事実やそれを基に考えたことを書く。(思・判・表B(2)ア)	【知・技】比較や分類, 関係づけなどの情報の整理のしかた, 引用のしかたや出典の示し方について理解を深め, それらを使っている。(2)イ) →情報を整理し, 自分の考えを裏づける資料やデータを選び, 出典の示し方に気をつけながら引用している。 【思・判・表】 ・「書くこと」において, 書く内容の中心が明確になるように, 段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えている。(B(1)イ) →自分の考えに説得力をもたせるようなレポートの構成を考えている。 ・「書くこと」において, 根拠を明確にしながら, 自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ) →自分の考えを裏づける資料やデータを選び, アンケートで得られた情報を適切に関連づけて, 考察を導き出している。 【態】文章の構成や展開を粘り強く考え, 学習の見通しをもってレポートを作成しようとしている。	【知・技】 学習プリントの記述 【思・判・表】 表現活動(レポート) 学習プリントの記述 課題などの成果物 【態】 課題の提出状況 プリントの記述 振り返りの記録
10月	漢字に親しもう3 1 時間 ◎小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字に加え, その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読むことができる。また, 学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き, 文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)イ) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに, 進んで読書をし, 我が国の言語文化を大切に, 思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力, 人間性等)	【知・技】小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字に加え, その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また, 学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き, 文や文章の中で使っている。(1)イ) →小学校で学習した漢字を使って文章を作り, 中学校で学習する漢字の読み方について理解している。 【態】学習課題に沿って, 積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。	【知・技】 定期考査 小テスト 学習課題の記述 【態】 定期考査 課題の提出状況

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	評価規準	評価方法
10月	【話し合い】 話し合いの展開を捉える 1時間 ◎意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめることができる。(思・判・表A(1)オ) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★互いの考えを伝えるなどして、少人数で話し合う。(思・判・表A(2)イ)	【知・技】意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) →「上達のポイント」にある「根拠を述べる」「前の人の意見を受けて話す」「自分の意見と比較しながら聞く」「意見を整理する」「話がそれたときは元的话题に戻す」を理解している。 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめている。(A(1)オ) →話題や展開を捉えながら話し合うために気をつけることを理解し、課題に沿って発言内容を考えている。 【態】進んで話題の展開を捉え、学習課題に沿って話し合いにおける発言のしかたについて考えようとしている。	【知・技】 表現活動(話し合い) 学習プリントの記述 【思・判・表】 表現活動(話し合い) プリントの記述 課題などの成果物 【態】 表現活動(話し合い) 課題の提出状況 プリントの記述 振り返りの記録
11月	話題や展開を捉えて話し合う グループ・ディスカッションをする 4時間 ◎意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめることができる。(思・判・表A(1)オ) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★互いの考えを伝えるなどして、少人数で話し合う。(思・判・表A(2)イ)	【知・技】意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) →自分の考えをまとめる際に、意見に対する根拠を考えている。 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめている。(A(1)オ) →話し合いの話題や展開を捉え、互いの発言を結び付けながら考えをまとめている。 【態】積極的に互いの発言を結び付けて考えをまとめ、学習の見通しをもってグループ・ディスカッションをしようとしている。	
11月	音読を楽しもう 大阿蘇 1時間 ◎事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)ウ) ◎文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。(思・判・表C(1)エ) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ) →詩の言葉がどのように使われているか考えて、朗読をしている。 【思・判・表】「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。(C(1)エ) →繰り返しの表現や繰り返しながら変化している表現などに着目しながら考えている。 【態】進んで表現の効果について考え、これまでの学習を生かして朗読しようとしている。	【知・技】 表現活動(音読) 学習プリントの記述 【態】 授業中の学習態度、 発言状況 プリントの記述 振り返りの記録
11月	季節のしおり 秋 ・事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)ウ) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ) →秋に関わる言葉にふれ、それぞれの秋の情景を想像している。 【態】伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。	【知・技】 課題の記録 【態】 課題の記録

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	評価規準	評価方法
11月	音読を楽しもう いろは歌 古典の世界 1時間 ◎音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむことができる。(知・技(3)ア) ◎古典にはさまざまな種類の作品があることを知ることができる。(知・技(3)イ) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	【知・技】 - 音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。(3)ア) →言葉の調子や間の取り方などを意識して音読している。 - 古典にはさまざまな種類の作品があることを知っている。(3)イ) →小学校から親しんできた古典の作品を思い起こし、古典にはさまざまな種類の作品があることを理解している。 【態】 古典にはさまざまな種類の作品があることを積極的に知り、今までの学習を生かして古文を音読しようとしている。	【知・技】 定期考査 表現活動（音読） 学習プリントの記述 【態】 定期考査 授業中の学習態度、 発言状況 プリントの記述 振り返りの記録
11月	蓬萊の玉の枝 ——「竹取物語」から 4時間 ◎音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむことができる。(知・技(3)ア) ◎場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えることができる。(思・判・表C(1)イ) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★物語などを読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	【知・技】 音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。(3)ア) →音読に必要な文語のきまり、古文特有のリズムについて理解し、その世界に親しんでいる。 【思・判・表】 「読むこと」において、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。(C(1)イ) →「蓬萊の玉の枝」に登場する人々の関係や思いに着目して読み、現代の自分たちと比べ、古典の世界と現代の人々に共通する部分を考えている。 【態】 進んで古文を音読し、学習課題に沿って描かれている古典の世界を想像しようとしている。	【知・技】 定期考査 学習プリントの記述 【思・判・表】 定期考査 学習プリントの記述 【態】 定期考査 課題の提出状況 プリントの記述 振り返りの記録
11月	今に生きる言葉 【書く】 故事成語を使って体験文を書こう 2時間（読①書①） ◎音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、漢文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむことができる。(知・技(3)ア) ◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができる。(思・判・表C(1)オ) ◎書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えることができる。(思・判・表B(1)イ) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★漢文を読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ) ★本や資料から文章を引用して説明するなど、事実やそれを基に考えたことを書く。(思・判・表B(2)ア)	【知・技】 音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、漢文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。(3)ア) →音読に必要な文語のきまり、漢文特有のリズムや言い回しなどについて理解している。 【思・判・表】 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしている。(C(1)オ) →「矛盾」や、「推敲」「蛇足」「四面楚歌」の基になった故事を調べ、どんな意味に使われるようになったか説明している。 「書くこと」において、書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えている。(B(1)イ) →「矛盾」と自分の体験とを重ねて、書く内容の中心が明確になるように文章の展開や構成を考えている。 【態】 積極的に漢文を音読し、今までの学習を生かして故事成語を使った文章を書こうとしている。	【知・技】 定期考査 学習プリントの記述 【思・判・表】 定期考査 学習プリントの記述 課題などの成果物 【態】 定期考査 課題の提出状況 プリントの記述 振り返りの記録

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	評価規準	評価方法
12月	「不便」の価値を見つめ直す 【書く】根拠を明確にして、意見をまとめよう 4時間（読③書①） ◎原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア） ◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使うことができる。（知・技(2)イ） ◎目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈することができる。（思・判・表C(1)ウ） ◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができる。（思・判・表C(1)オ） ◎根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力、人間性等） ★説明の文章を読み、理解したことや考えたことを報告したり文章にまとめたりする。（思・判・表C(2)ア） ★本や資料から文章や図表などを引用して説明したり記録したりするなど、事実やそれを基に考えたことを書く。（思・判・表B(2)ア）	【知・技】 ・原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。（(2)ア） →意見と根拠の関係に着目して、必要な情報を取り出し、整理している。 ・比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。（(2)イ） →要約するための情報の整理のしかたを理解し、自分の考えをまとめるときに要約や引用を明確に示している。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈している。（C(1)ウ） →目的に沿って必要な情報を結び付け、要約している。 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしている。（C(1)オ） →賛成か反対か、立場を明確にして、筆者の主張に対する自分の考えをまとめている。 ・「書くこと」において、根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。（B(1)ウ） →立場を明確にして、自分の考えの根拠となる事例を挙げながら、意見をまとめて書いている。 【態】積極的に必要な情報に着目して要約し、自分の考えを文章にまとめようとしている。	【知・技】 定期考査 学習プリントの記述 【思・判・表】 定期考査 学習プリントの記述 課題などの成果物 【態】 定期考査 課題の提出状況 プリントの記述 振り返りの記録
12月	助言を自分の文章に生かそう 作品の書評を書く 2時間 ◎読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解することができる。（知・技(3)オ） ◎根拠の明確さなどについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすことができる。（思・判・表B(1)オ） ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力、人間性等） ★本や資料から文章や図表などを引用して説明したり記録したりするなど、事実やそれを基に考えたことを書く。（思・判・表B(2)ア）	【知・技】読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。（(3)オ） →書評を書き、助言し合う活動を通して、読書の意義を理解している。 【思・判・表】「書くこと」において、根拠の明確さなどについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。（B(1)オ） →読み手からの助言を踏まえて、自分の書いた書評のよい点や改善点を見つけている。 【態】読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を進んで見だし、学習課題に沿って書評を書き、助言し合おうとしている。	【知・技】 定期考査 学習プリントの記述 【思・判・表】 定期考査 学習プリントの記述 課題などの成果物 【態】 定期考査 課題の提出状況 プリントの記述 振り返りの記録

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	評価規準	評価方法
12月	漢字に親しもう 4 1 時間 ◎小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)イ) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	【知・技】 小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)イ →小学校で学習した漢字を使って文章を作り、中学校で学習する漢字の読み方について理解している。 【態】 学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。	【知・技】 定期考査 小テスト 学習課題の記述 【態】 定期考査 課題の提出状況
12月	文法への扉 2 言葉の関係を考えよう 2 時間 ◎単語の類別について理解することができる。(知・技(1)エ) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	【知・技】 単語の類別について理解している。(1)エ →「文節どうしの関係」「連文節」「文の組み立て」について、理解を深めている。 【態】 単語の類別を理解するために、今までの学習を生かして、積極的にその前提となる文の組み立てについて理解しようとしている。	【知・技】 定期考査 小テスト 【態】 定期考査 課題の提出状況
12月	考える人になろう 君たちはどう生きるか たのしい制約 読書案内 本の世界を広げよう 1 時間 ◎読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解することができる。(知・技(3)オ) ◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができる。(思・判・表C(1)オ) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★学校図書館などを利用し、多様な情報を得て、考えたことなどを報告したり資料にまとめたりする。(思・判・表C(2)ウ)	【知・技】 読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。(3)オ →読書の意義(＝読書が知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つこと)を理解している。 【思・判・表】 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしている。(C(1)オ) →筆者のものの見方や考え方が表れている部分に線を引き、考えたことをグループで発表し合う活動を通して、自分の理解を確かなものにしている。 【態】 読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを積極的に理解し、今までの学習を生かして考えたことを伝え合おうとしている。	【知・技】 学習プリントの記述 【思・判・表】 学習プリントの記述 課題などの成果物 【態】 授業中の学習態度、 発言状況 プリントの記述
12月	季節のしおり 冬 ・事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)ウ) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	【知・技】 事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ →冬に関わる言葉にふれ、それぞれの冬の情景を想像している。 【態】 伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。	【知・技】 課題の記録 【態】 課題の記録

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	評価規準	評価方法
8 自分を見つめる			
1月	少年の日の思い出 〔書く〕別の人物の視点から文章を書き換えよう 6時間（読④書②） ◎事象や行為、心情を表す語句の量を増すと同時に、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)ウ） ◎文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。（思・判・表C(1)エ） ◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができる。（思・判・表C(1)オ） ◎書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えることができる。（思・判・表B(1)イ） ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力、人間性等） ★小説を読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする。（思・判・表C(2)イ） ★詩を創作したり随筆を書いたりするなど、感じたことや考えたことを書く。（思・判・表B(2)ウ）	【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すと同時に、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。（(1)ウ） →場面描写の言葉や登場人物の心情を表す言葉に着目している。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。（C(1)エ） →時間・場所・出来事・語り手に着目して作品の構成や展開を捉えたり、具体的な表現を挙げてその効果について自分の考えをまとめたりしている。 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしている。（C(1)オ） →登場人物の考え方や感じ方について、自分の考えをもっている。 ・「書くこと」において、書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えている。（B(1)イ） →別の人物を選び、その人物の心情や行動が明確になるように構成や展開を工夫して書いている。 【態】文章の構成や展開、表現の効果について積極的に考え、学習の見通しをもって別の人物の視点から文章を書き換えようとしている。	【知・技】 定期考査 学習プリントの記述 【思・判・表】 定期考査 表現活動（発表） 学習プリントの記述 課題などの成果物 【態】 定期考査 課題の提出状況 プリントの記述 振り返りの記録
1月	漢字に親しもう5 1時間 ◎小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)イ） ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力、人間性等）	【知・技】小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。（(1)イ） →小学校で学習した漢字を使って文章を作り、中学校で学習する漢字の読み方について理解している。 【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。	【知・技】 定期考査 小テスト 学習課題の記述 【態】 定期考査 課題の提出状況
1月	文法への扉3 単語の性質を見つけよう 2時間 ◎単語の類別について理解することができる。（知・技(1)エ） ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力、人間性等）	【知・技】単語の類別について理解している。（(1)エ） →「単語の分類」「品詞」「体言と用言」について、理解を深めている。 【態】今までの学習を生かして、積極的に単語の類別について理解しようとしている。	【知・技】 定期考査 小テスト 【態】 定期考査 課題の提出状況
1月	随筆二編 2時間 ◎事象や行為、心情を表す語句の量を増すと同時に、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができ	【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すと同時に、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。（(1)ウ）	【知・技】 学習プリントの記述 【思・判・表】 表現活動（随筆）

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	評価規準	評価方法
	る。(知・技(1)ウ) ◎場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈することができる。(思・判・表C(1)ウ) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★随筆を読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	→「空の描写」や「父親とのやりとり」がどのように表現されているかを理解している。 【思・判・表】「読むこと」において、場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈している。(C(1)ウ) →場面の展開や描写に着目しながら、筆者の「空」についての思いや「父親」への思いを捉えている。 【態】進んで場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈し、今までの学習を生かして考えたことを伝え合おうとしている。	学習プリントの記述 課題などの成果物 【態】 課題の提出状況 プリントの記述 振り返りの記録。
2月	構成や描写を工夫して書こう 体験を基に随筆を書く 4 時間 ◎事象や行為、心情を表す語句の量を増すと同時に、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)ウ) ◎書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えることができる。(思・判・表B(1)イ) ◎根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★随筆を書き、感じたことや考えたことを書く。(思・判・表B(2)ウ)	【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すと同時に、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ) →体験や思いを伝えるために、情景や心情を表す言葉を適切に選んで使っている。 【思・判・表】 ・「書くこと」において、書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えている。(B(1)イ) →読み手に状況がイメージできるように、書く内容の中心が伝わるように、構成を工夫している。 ・「書くこと」において、根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ) →書きだしや結び、出来事を、言葉を吟味し、描写を工夫して書いている。 【態】粘り強く文章の構成や展開を考え、学習の見通しをもって随筆を書こうとしている。	
2月	言葉 3 さまざまな表現技法 2 時間 ◎比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使うことができる。(知・技(1)オ) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	【知・技】比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使っている。(1)オ) →比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解している。 【態】積極的に比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し、学習課題に沿ってそれらを使おうとしている。	【知・技】 学習プリントの記述 【思・判・表】 学習プリントの記述 課題などの成果物 【態】 課題の提出状況 プリントの記述
2月	漢字 3 漢字の成り立ち 漢字に親しもう 6 1 時間 ◎小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)イ) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	【知・技】小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)イ) →漢字の成り立ちについて理解し、漢和辞典を使って調べている。 【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。	【知・技】 定期考査 小テスト 学習課題の記述 【態】 定期考査 課題の提出状況

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	評価規準	評価方法
3月	一年間の学びを振り返ろう 要点をフリップにまとめ、発表する 5時間（話聞③書②） ◎音声の働きや仕組みについて、理解を深めることができる。（知・技(1)ア） ◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使うことができる。（知・技(2)イ） ◎相手の反応を踏まえながら、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫することができる。（思・判・表A(1)ウ） ◎目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力、人間性等） ★紹介や報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問したり意見などを述べたりする。（思・判・表A(2)ア） ★本や資料から文章や図表などを引用して説明したり記録したりするなど、事実やそれを基に考えたことを書く。（思・判・表B(2)ア）	【知・技】 ・音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。（(1)ア） →声の大きさ、話す速さ、間の取り方などに注意しながら発表をしている。 ・比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。（(2)イ） →情報の整理のしかたを理解し、要点をわかりやすくフリップにまとめている。 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、相手の反応を踏まえながら、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫している。（A(1)ウ） →聞き手や場に応じて、発表の言葉や表現を変えるなどの工夫をしている。 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。（B(1)ア） →「観点」に見合った情報を集め整理し、内容が伝わる端的な言葉をフリップに書いている。 【態】集めた材料を積極的に整理し、今までの学習を生かして要点をフリップにまとめ、発表しようとしている。	【知・技】 学習プリントの記述 【思・判・表】 表現活動（フリップ、スライドなど） 学習プリントの記述 課題などの成果物 【態】 課題の提出状況 プリントの記述 振り返りの記録
3月	さくらの はなびら 1時間 ◎比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使うことができる。（知・技(1)オ） ◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができる。（思・判・表C(1)オ） ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力、人間性等） ★詩を読み、考えたことなどを伝え合う。（思・判・表C(2)イ）	【知・技】比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使っている。（(1)オ） →詩に用いられている表現の技法を理解し使っている。 【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしている。（C(1)オ） →詩の解釈を通して理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしている。 【態】文章を読んで理解したことに基づいて、積極的に自分の考えを確かなものにし、考えたことを伝え合おうとしている。	【知・技】 学習プリントの記述 【思・判・表】 学習プリントの記述 課題などの成果物 【態】 課題の提出状況 プリントの記述
3月	学習を振り返ろう 3時間（読①話聞①書①） ◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使うことができる。（知・技(2)イ） ◎共通語と方言の果たす役割について理解することができる。（知・技(3)ウ） ◎文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握することができる。（思・判・表C(1)ア） ◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができる。（思・判・表C(1)オ） ◎相手の反応を踏まえながら、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫することができる。（思・判・表A(1)ウ） ◎根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるよう	【知・技】 ・比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。（(2)イ） →曲名と歌の一節を引用する方法を理解している。 ・共通語と方言の果たす役割について理解している。（(3)ウ） →課題にある方言の例を読み、共通語と方言の果たす役割について理解している。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握して	【知・技】 学習プリントの記述 【思・判・表】 学習プリントの記述 課題などの成果物 【態】 課題の提出状況 プリントの記述

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	評価規準	評価方法
	に工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★説明の文章を読み、理解したことや考えたことを報告したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア) ★紹介や報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問したり意見などを述べたりする。(思・判・表A(2)ア) ★本や資料から文章や図表などを引用して説明したり記録したりするなど、事実やそれを基に考えたことを書く。(思・判・表B(2)ア)	いる。(C(1)ア) →温暖化による流氷の減少が、環境に与える影響について、網走気象台の観測記録からわかった事実を二つに分けて書いている。 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものになっている。(C(1)オ) →「……という警告。」で終わる形になるように、筆者の示した情報と自分の考えを結び付けて書いている。 ・「話すこと・聞くこと」において、相手の反応を踏まえながら、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫している。(A(1)ウ) →話すときは、聞き手の反応を踏まえて、伝えたいことが伝わるように表現を工夫している。 ・「書くこと」において、根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ) →卒業式で歌ったり聞いたりしたい歌について、自分の思いや考えを繰り返すだけでなく、根拠となる事例を挙げて文章を書いている。 【態】今までの学習を生かして、それぞれの学習課題に粘り強く取り組もうとしている。るとよい。	